

8 下部尿管結石に対する漢方薬の使用経験

※ 演者の都合により演題取下げとなりました

小松泌尿器科

小松 歩

尿管結石が、尿管膀胱移行部(以下UBJ)に留まり、下部尿路症状(膀胱刺激症状)および下腹部痛が持続することがある。結石の排出促進のため、アルファブロッカーを使用する。しかし、アルファブロッカーでは、結石による膀胱刺激症状を改善させることは少ない。また、女性の場合、アルファブロッカーが使用困難なことも多い。今回、下部尿管結石の排出促進、および、症状緩和に五淋散を使用し、著効した3例を、報告する。また、その後、膀胱刺激症状を随伴した下部尿管結石に対し五淋散を使用した30例についても報告する。

症例1 50歳男性 202X/1/28初診 202X-1/12/28に、下腹部痛のため内科を受診し、尿管結石を疑われた。痛みは座薬で治まったが、膀胱炎のような頻尿が持続している。腰痛もあるが、職業柄以前からある。左叩打痛は認めない。USでは、左尿管膀胱移行部に、8.5mmの結石を認める。左軽度水腎症を認めるが、水尿管症は判然としない。左腎結石も認める。右腎には異常なし。シロドシン+芍薬甘草湯を投与したが、1/7 膀胱炎症状が強く、早期の手術を希望され受診。USでは、結石の位置は変わらなかった。五淋散とシロドシンに変更し、県立中央病院に手術依頼した。1/10 内服後、膀胱炎様症状は早期に消失し、今朝結石排出した。

症例2 75歳女性 202X/4/1初診 2ヶ月前から、肉眼的血尿に気がついてきた。1ヶ月前に、内科でCTも撮影したが、異常なしと言われた。USでは、右UBJに7-8mmの結石を2個認め、右水腎水尿管症が著明であった。長期間同位置にあったものと考え、大学病院紹介した。また、五淋散を投与した。4/28 結石排出した。(その後、大学病院術前検査のCTにて、結石消失していたことを確認。)

症例3 75歳女性 202X/3/6初診 5日前から、左側腹部痛が生じている。肉眼的血尿、排尿に関する自覚症状なし。USでは、膀胱内に結石腫瘍なく、左水腎水尿管症が中等度で、中部尿管に7mmの結石を認めた。両側腎臓に小石灰化を認めた。猪苓湯と芍薬甘草湯を開始し、3/18痛みが消失した。3/18USでは、左水腎水尿管症は軽減し、結石は臍レベルまで下降した。ウラピジルを併用し、3/25には、下腹部違和感のみになった。3/25USでは、結石はUBJに下降したものの、血圧低下のためウラピジルは中止。その後、五淋散に変更。4/8にも結石位置は不変。県立中央病院に紹介した。4/10排尿に関する自覚症状消失。結石排出の自覚はないものの、USでは、結石は消失。4/14県立中央病院のCTでも結石消失したことを確認された。これまで、五淋散は、結石に使用できるは、分かっていたが、実際の臨床ではどう使用するかが分からなかった。今回の3症例と、その後の30例から下部尿管結石、特に、尿管膀胱移行部に嵌頓した結石には、症状の改善と排出促進を目標に五淋散が有効である可能性を見いだした。